

2年文理・特進 日本史B 課題

1. 教科書 P,8～15 を読む。
2. ルーズリーフに解き、教科書で確認する。
3. 最初の授業時に、担当者に提出。

1. 旧石器時代～縄文時代に関する以下の文を読み、空所に適する語句を記入しなさい。

地質学でいう ( 1 ) は氷河時代とも呼ばれ、氷期と間氷期が交互に訪れた。氷期には海面が現在より大幅に低下したため、現在の日本列島はアジア大陸北東部と陸続きになり、トウヨウゾウや ( 2 ) などがやってきたと想定される。こうした大型動物を追って、人類も日本列島に渡来した可能性がある。

人類は猿人・原人・旧人・新人の順に出現したとされるが、日本列島では静岡県 ( 3 ) や沖縄県の ( 4 ) ・山下町洞人など、新人段階の化石人骨が発見されている。このころの人類はまだ金属器を知らず、打ち欠いただけの ( 5 ) 石器を使用していたので、この時代を ( 6 ) 時代という。かつて、日本列島に6時代の遺跡は存在しないと考えられていたが、群馬県 ( 7 ) 遺跡で関東ローム層から6石器が発見され、その定説はくつがえされた。人びとはナイフ形石器や尖頭器を利用して大型動物を捕え、6時代の終わり頃には細石器と呼ばれる小型の石器も出現している。

およそ1万年余り前、地質学でいう ( 8 ) に入ると、気候の温暖化で海面が上昇し、現在とほぼ同形の日本列島が形成された。自然環境の変化に応じて人びとの生活もかわり、縄文文化が成立した。縄文文化の特徴は、中・小型動物を射るための狩猟具である ( 9 ) 、食物を煮るための土器、石を磨いて作りあげる ( 10 ) 石器の出現である。縄文土器にはさまざまな形態があり、型式変化を基準にして ( 11 ) 期に区分することが多い。食料の獲得方法も多様化し、人びとの生活は安定性を増した。各地に残る ( 12 ) から骨角器などが発掘され、従来の狩猟・採取に加えて漁労が発達したことがわかる。地面を掘り下げた掘立柱式の ( 13 ) 住居の存在は、定住的な生活の開始を示すものである。集落には住居だけではなく、食料保存のための貯蔵穴や墓地があり、青森県 ( 14 ) 遺跡のように、大型の集合住居がともなう場合もある。

社会生活の面では、各地域で広く交易がなされ、黒色透明の火成岩である ( 15 ) やひすい(硬玉)など、石器の原料となる鉱物の広範な分布がそれを物語る。精神生活の面では、あらゆる自然物に霊威の存在を認める ( 16 ) の考え方をもとに、さまざまな呪術がおこなわれていた。土偶や石棒の製作、通過儀礼としての抜歯、死者の体を折り曲げて埋葬する ( 17 ) などは、その典型である。

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17			